

| | |
|--------------------------------|--------------|
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 次頁に WG ごとに記載 |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | 次頁に WG ごとに記載 |

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

| 総合評価 (4段階評価) | A | B | C | D |
|--|--|---|---|---|
| 総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等) | <p>(1) 学校空気環境 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：昨年度から開始した科研費研究を継続し、各地の学校施設において教室のみならず、災害時の避難所になる体育館についても調査を行い、室内の空気・温熱環境の課題や対策に関する議論を行うことができた。さらに、学校環境の若手研究者1名を新メンバーとして迎えることが決定した。 ・WG活動の問題点・課題：感染拡大の折、計画通りの現場実測やWG開催ができなかった。 ・WG活動の総合評価：A <p>(2) 自然換気・通風設計 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：自然換気建物の風圧係数データ等基礎研究の知見に加え、当該WGの目標としている最新の事例調査を行い、高層建物での自然換気性能及び運用実態に関する知見を着実に蓄えることができた。 ・WG活動の問題点・課題：長期目標としていた日本語版ハンドブックの改定が現状の売上げ部数の関係から困難な状況が課題として挙げられるが、成果発信の学術的重要性に鑑み、今後はAIJESの刊行を目指して継続的に議論を行う。 ・WG活動の総合評価：A <p>(3) 気密性能 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：国内における気密性能の実態に関する調査および情報収集を行うと共に、防湿層、気密層の施工が不十分であることに起因する結露発生事例の情報収集を行った。更に、気密性能に関する海外の指針・基準の情報収集も併せて実施し、最適な気密性能の在り方について議論した。これまでの活動で得られた知見、情報を基にAIJESのコンテンツを整備した。 ・WG活動の問題点・課題：気密性能に関する基準・指針の在り方について引き続き議論し、AIJESの策定に向け作業を進める。 ・WG活動の総合評価：A <p>(4) 換気・通風性能評価 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：換気・通風・送風方式に関する計算・測定理論的な研究等を抽出し、①熱線流速計によるシーリングファン気流の3次元計測、②損傷鉄筋コンクリート壁の通気特性に関する研究、③隙間換気における2次式モデルの適用、④有孔ダクト天井を用いた自然換気システム、⑤局所排気フードの捕集効率に関する最近の話題、⑥通風を考慮した実住宅群の配置・形状計画に関する逆解析、⑦両面バルコニーを有する戸建て住宅の通風性状等について議論を行った。 ・WG活動の問題点・課題：換気性能・通風性能に関する研究は多岐に渡り、今後も調査を続ける次第である。 ・WG活動の総合評価：B | | | |

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。